

福島大人間発達文化学類の川本和久研究室は19日までに、気圧を調整した環境がスポーツに与える影響について、健康維持増進機器の製造に取り組む進盟ルーム(いわき市・川上陽介社長)との共同研究を開始した。同日、同研究室が発表した

共同研究では、同社が手掛ける、気圧を下げて元に戻すことを繰り返すことができる「調圧ルーム」を活用する。

同社によると、調圧ル

気圧の運動影響研究

福島大と進盟ルーム(いわき)共同

ムに入ると心拍数には変化がないまま体温が上がり、疲労を感じないことが分かっているという。

今後、調圧に伴う気圧や酸素分圧の変化が体に与える影響を、自律神経系や身体コンディショニング、スポーツの競技力向上への影響などの観点から研究し、成果を学会で発表する。

同社の川上陽介社長(48)は「医学博士の学位も取得している川本教授と共同研究を進めることで、スポーツ選手の競技力向上と同時に



調圧ルームを利用した共同研究に取り組む(左から)川上社長、川本教授

に健康も増進し、県民の健康向上へとつなげていきたい」と期待を語った。

承認 Jリーグは19日、東京都内で理事会を開き、日本フットボールリーグ(JFL)のラインメール青森とテゲバジャーロ宮崎を、リーグの準加盟に相当する百年構想クラブとして承認した。百年構想クラブはJ

F1に5クラブとなり、計7クラブが増えた。今季から月間表彰に「優秀監督賞」の新設を決め、J1、J2、J3でそれぞれ月間のMVP、ベストゴール、優秀監督賞の3部門が選定される。

福大と進盟ルーム 共同研究スタート

気圧の変動と力 関連性解明へ



学内に設置された「調圧ルーム」

福島大と進盟ルーム(いわき市)は、気圧が絶え間なく変化する状態が身体に与える影響を調べ、スポーツの競技力向上につながるメカニズム

を明らかにする共同研究を開始した。19日、福島大が発表した。

進盟ルームが開発した「調圧ルーム」を活用する。気圧を下げ、元の状

態に戻すことを繰り返して、気圧が常に変動している状態をつくる。進盟ルームによると、身体の細胞を活性化させ、スポーツの競技力を高める可能性があるという。共同研究では福島大に機材や研究データなどを提供する。

進盟ルームは2003(平成15)年に創業。人間の免疫力や自然治癒力の向上につながる気圧の運用方法を研究し、調圧ルームを体験できる店舗を県内外に持っている。

2018年度東北地方発明表彰の発明奨励賞を受賞している。川上陽介社長は「私たちの研究がスポーツに携わる方々の一助になればうれしい」と話した。